

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日  
Date of Application:

2002年 8月 5日

出 願 番 号  
Application Number:

特願2002-227697

[ ST.10/C ]:

[ JP2002-227697 ]

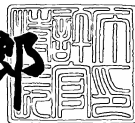
出 願 人  
Applicant(s):

株式会社デンソー

2003年 7月 4日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3053302

【書類名】	特許願
【整理番号】	ND020611
【提出日】	平成14年 8月 5日
【あて先】	特許庁長官 殿
【国際特許分類】	F02M 37/00
【発明の名称】	ポンプモジュール
【請求項の数】	21
【発明者】	
【住所又は居所】	愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地 株式会社デンソー内
【氏名】	加藤 秀樹
【発明者】	
【住所又は居所】	愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地 株式会社デンソー内
【氏名】	泉谷 浩司
【発明者】	
【住所又は居所】	愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地 株式会社デンソー内
【氏名】	山田 勝久
【特許出願人】	
【識別番号】	000004260
【氏名又は名称】	株式会社デンソー
【代理人】	
【識別番号】	100093779
【弁理士】	
【氏名又は名称】	服部 雅紀
【手数料の表示】	
【予納台帳番号】	007744
【納付金額】	21,000円
【提出物件の目録】	
【物件名】	明細書 1
【物件名】	図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9004765

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ポンプモジュール

【特許請求の範囲】

【請求項1】 電気駆動式の燃料ポンプと、

前記燃料ポンプの外周を前記外周の中心軸周りに少なくとも一部覆っているフィルタケース、ならびに前記フィルタケースに収容され前記燃料ポンプが吐出する燃料中の異物を除去するフィルタエレメントを有する燃料フィルタと、

前記燃料ポンプが吐出し前記燃料フィルタから流出する燃料圧力を調整するブレッシャレギュレータと、

を備えるポンプモジュールであって、

前記ブレッシャレギュレータは前記フィルタケースの外周側方に設置されていることを特徴とするポンプモジュール。

【請求項2】 前記ブレッシャレギュレータは前記フィルタケースの外周側面に設置されていることを特徴とする請求項1記載のポンプモジュール。

【請求項3】 電気駆動式の燃料ポンプと、

前記燃料ポンプの外周を前記外周の中心軸周りに少なくとも一部覆っているフィルタケース、ならびに前記フィルタケースに収容され前記燃料ポンプが吐出する燃料中の異物を除去するフィルタエレメントを有する燃料フィルタと、

前記燃料ポンプが吐出し前記燃料フィルタから流出する燃料圧力を調整するブレッシャレギュレータと、

前記燃料ポンプから吐出される燃料が前記燃料ポンプ側に逆流することを防止する逆止弁と、

を備えるポンプモジュールであって、

前記燃料フィルタの燃料流入部は前記燃料ポンプの吐出部の内周側に前記軸方向に嵌合しており、前記逆止弁は前記燃料流入部内に収容されていることを特徴とするポンプモジュール。

【請求項4】 前記燃料流入部、前記吐出部および前記逆止弁は前記軸方向の長さ範囲で重なっていることを特徴とする請求項3記載のポンプモジュール。

【請求項5】 前記ブレッシャレギュレータは前記フィルタケースの外周側

方に設置されていることを特徴とする請求項3または4記載のポンプモジュール。

【請求項6】 前記プレッシャレギュレータは前記フィルタケースの外周側面に設置されていることを特徴とする請求項5記載のポンプモジュール。

【請求項7】 前記プレッシャレギュレータの一部は前記フィルタケースを前記軸方向に投影した投影領域内に位置していることを特徴とする請求項1、2、5または6記載のポンプモジュール。

【請求項8】 前記フィルタケースは前記フィルタエレメントから流出する燃料の出口開口を外周側面側に有していることを特徴とする請求項1、2、5、6または7記載のポンプモジュール。

【請求項9】 前記フィルタケースは、前記フィルタエレメントを収容するケース本体と前記ケース本体の開口を塞ぐ蓋部とを有し、前記ケース本体は樹脂で一体成形されており、

前記燃料フィルタは、前記出口開口と連通する流出通路を形成し前記ケース本体と樹脂で一体成形されている燃料流出部を有し、

前記プレッシャレギュレータは、前記燃料流出部を貫通する貫通部に装着されて前記貫通部の一方の開口を閉塞し、前記貫通部の他方の開口側から余剰燃料を排出し、前記プレッシャレギュレータの流入通路は前記燃料流出部内で前記流出通路と連通していることを特徴とする請求項8記載のポンプモジュール。

【請求項10】 前記フィルタケースは、前記フィルタエレメントを収容するケース本体と前記ケース本体の開口を塞ぐ蓋部とを有し、前記ケース本体は樹脂で一体成形されていることを特徴とする請求項1から8のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【請求項11】 前記フィルタケースは前記燃料ポンプの全周を覆っていることを特徴とする請求項1から10のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【請求項12】 前記フィルタケースが前記軸方向に占める長さ範囲は、前記燃料ポンプが前記軸方向に占める長さ範囲とほぼ等しいことを特徴とする請求項1から11のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【請求項13】 前記フィルタエレメントが前記軸方向に占める長さ範囲は

、前記燃料ポンプが前記軸方向に占める長さ範囲とほぼ等しいことを特徴とする請求項 1 2 記載のポンプモジュール。

【請求項 1 4】 前記吐出部は前記燃料ポンプの前記中心軸上に位置していることを特徴とする請求項 1 から 1 3 のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【請求項 1 5】 前記フィルタケースから前記プレッシャレギュレータに余剰燃料が流入する方向は、前記プレッシャレギュレータから余剰燃料が流出する方向と同一であることを特徴とする請求項 1 から 1 4 のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【請求項 1 6】 前記フィルタケースから前記プレッシャレギュレータに余剰燃料が流入する方向は、前記プレッシャレギュレータから余剰燃料が流出する方向と異なっていることを特徴とする請求項 1 から 1 4 のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【請求項 1 7】 前記フィルタケースは、内筒と前記内筒の外周側に設置されている外筒とを有し、前記内筒と前記外筒との間に前記フィルタエレメントを収容し、前記内筒は前記燃料ポンプの全周を覆っており、

前記ポンプモジュールを設置した状態において、前記燃料ポンプの上方端面と前記内筒の内周側面とにより上方凹部が形成されており、

前記燃料ポンプと前記内筒との間を上方から下方に水が流れ排出されるように、前記燃料ポンプの外周側面と前記内周側面との間に水抜き通路が一箇所以上形成されており、前記水抜き通路以外の位置において、前記外周側面と前記内周側面とは当接しているか、水が落下しない程度の隙間を形成していることを特徴とする請求項 1 から 1 6 のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【請求項 1 8】 前記燃料ポンプは前記軸方向の一方の端部に燃料を吐出する吐出部を形成しており、

前記フィルタケースは、内筒および前記内筒の外周側に設置されている外筒を有し、前記内筒と前記外筒との間に前記フィルタエレメントを収容する断面円環状の収容室を形成し、前記内筒は前記燃料ポンプの外周を覆っており、

前記燃料ポンプは、前記燃料ポンプに駆動電流を供給する給電線の端部に設けられた給電端子に電氣的に接続可能な受電端子を前記吐出部の形成端部に有し、

前記フィルタケースは、前記内筒および前記外筒の各開口縁部に接続され前記燃料ポンプの前記吐出部の形成端部を覆う蓋部をさらに有し、

前記蓋部は、前記吐出部内と前記収容室とに接続されて連通し前記燃料ポンプの吐出燃料を前記吐出部から前記収容室に向かって流通させる通路であって前記吐出部との接続部分がシールされている燃料通路と、前記燃料通路と連通しない通路であって前記受電端子を露出させ前記給電線の前記給電端子側端部を通過させる給電用通路とを形成していることを特徴とする請求項 1 から 1 7 のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【請求項 1 9】 前記燃料ポンプは金属製のポンプハウジングを有し、

前記フィルタケースは、前記ポンプハウジングの全周を覆っており、非導電性の樹脂により前記燃料ポンプ側の内筒ならびに前記内筒の外周側に設置されている外筒を有する筒状に形成され、前記内筒と前記ポンプハウジングとの間は所定距離以下であることを特徴とする請求項 1 から 1 8 のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【請求項 2 0】 前記燃料ポンプが吸入する燃料を蓄積するタンクに前記ポンプモジュールを設置した状態で、前記プレッシャレギュレータの前記軸方向の長さは、前記フィルタケースの底部と前記タンクの内側底面との間隔よりも長いことを特徴とする請求項 1 または 2 あるいは請求項 5 から 9 のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【請求項 2 1】 前記燃料ポンプが吸入する燃料を蓄積するタンクに前記ポンプモジュールを設置する場合、前記燃料ポンプは前記中心軸を鉛直方向に向けて設置されることを特徴とする請求項 1 から 2 0 のいずれか一項記載のポンプモジュール。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、燃料ポンプの外周側にフィルタケースを設置しているポンプモジュールに関する。

【 0 0 0 2 】

## 【従来の技術】

円弧状または円筒状に形成したフィルタケース内にフィルタエレメントを収容している燃料フィルタを、燃料ポンプの外周に燃料ポンプを覆うように設置しているポンプモジュールとして、特開平6-213091号公報に開示されているものが知られている。このように円弧状または円筒状の燃料フィルタが燃料ポンプの外周を覆うことにより、ポンプモジュールが占有する空間を極力小さくすることができる。

## 【0003】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、燃料ポンプから吐出される燃料圧力を調圧するプレッシャレギュレータ、あるいは燃料ポンプから吐出される燃料の逆流を防止する逆止弁をポンプモジュールに取り付ける場合、取付位置によってはポンプモジュールの軸方向の長さが延びることがある。例えば特開平6-213091号公報では、プレッシャレギュレータがフィルタケース上方に設けられているので、ポンプモジュールの軸方向の長さが長くなっている。

## 【0004】

本発明の目的は、プレッシャレギュレータを取り付けることにより軸長が長くなることを防止するポンプモジュールを提供することにある。

本発明の他の目的は、逆止弁を取り付けることにより軸長が長くなることを防止するポンプモジュールを提供することにある。

## 【0005】

## 【課題を解決するための手段】

本発明の請求項1または5記載のポンプモジュールによると、プレッシャレギュレータがフィルタケースの外周側方に設置されているので、燃料ポンプの外周の中心軸方向（以下、「燃料ポンプの外周の中心軸方向」を単に軸方向という。）におけるフィルタケースの長さ範囲内にプレッシャレギュレータの少なくとも一部が存在する。軸方向に占める燃料フィルタとプレッシャレギュレータとの長さの合計は、燃料フィルタとプレッシャレギュレータとの軸方向の長さの合計よりも短くなる。したがって、ポンプモジュール全体として、軸方向の長さが短く



なる。

【 0 0 0 6 】

本発明の請求項 2 または 6 記載のポンプモジュールによると、プレッシャレギュレータがフィルタケースの外周側面に設置されているので、軸方向におけるフィルタケースの長さ範囲内にプレッシャレギュレータの少なくとも一部が存在する。さらに、プレッシャレギュレータとフィルタケースとが径方向に近づく。したがって、ポンプモジュール全体として、軸方向および径方向の体格が小さくなる。

【 0 0 0 7 】

本発明の請求項 3 記載のポンプモジュールによると、フィルタケースの燃料流入部は燃料ポンプの吐出部の内周側に軸方向に嵌合しており、逆止弁は燃料流入部に収容されている。フィルタケースの燃料流入部、燃料ポンプの吐出部および逆止弁が軸方向に占める合計の長さが短くなる。

本発明の請求項 4 記載のポンプモジュールによると、フィルタケースの燃料流入部、燃料ポンプの吐出部および逆止弁は軸方向の長さ範囲で重なっている。フィルタケースの燃料流入部、燃料ポンプの吐出部および逆止弁が軸方向に占める合計の長さが短くなる。

【 0 0 0 8 】

本発明の請求項 7 記載のポンプモジュールによると、プレッシャレギュレータの一部はフィルタケースを軸方向に投影した投影領域内に位置している。中心軸と直交する方向である径方向に占める燃料フィルタとプレッシャレギュレータとの長さの合計は、燃料フィルタとプレッシャレギュレータとの径方向の長さの合計よりも短くなる。したがって、ポンプモジュール全体として径方向の長さが短くなる。

本発明の請求項 8 記載のポンプモジュールによると、フィルタケースは外周側面側に出口開口を有している。フィルタケースの外周側方に設置されるプレッシャレギュレータの流入通路とフィルタケースの出口開口との接続距離を極力短くすることができる。

【 0 0 0 9 】

本発明の請求項 9 記載のポンプモジュールによると、ケース本体と樹脂で一体成形されている燃料流出部を貫通する貫通部にプレッシャレギュレータが装着され、プレッシャレギュレータの流入通路は燃料流出部内で燃料流出部の流出通路と連通している。プレッシャレギュレータの流入通路とフィルタケースの出口開口とを接続する配管が不要である。さらに、プレッシャレギュレータが燃料流出部に形成されている貫通部の一方の開口を閉塞し他方の開口から燃料を排出するので、貫通部を他部材で閉塞する必要がない。部品点数が減少するので、ポンプモジュールの組立工数が減少する。

## 【0010】

本発明の請求項 10 記載のポンプモジュールによると、フィルタケースのケース本体は樹脂で一体成形されているので部品点数が減少する。したがって、ポンプモジュールの組立工数が減少する。

本発明の請求項 12 または 13 記載のポンプモジュールによると、フィルタケースが軸方向に占める長さ範囲は、燃料ポンプが軸方向に占める長さ範囲とほぼ等しい。フィルタケースと燃料ポンプとが軸方向に占める長さ範囲がずれないので、ポンプモジュールの軸方向の長さが短くなる。

## 【0011】

本発明の請求項 14 記載のポンプモジュールによると、吐出部は燃料ポンプの中心軸上に形成されているので、燃料ポンプ内を流れる燃料が均等に吐出部に集まり、吐出部から吐出される。燃料ポンプ内部で乱流が発生しにくいので、乱流により燃料ポンプが振動することを抑制できる。

## 【0012】

本発明の請求項 17 記載のポンプモジュールによると、ポンプモジュールを設置した状態においてフィルタケースと燃料ポンプとの間を上方から下方に水が排出されるように、フィルタケースの内筒の内周側面と燃料ポンプの外周側面との間に水抜き通路が一箇所以上形成されている。これは次のような問題を解決するためである。

## 【0013】

フィルタケースをコンパクトな設計とするため、フィルタケースの内筒と燃料

ポンプとを接触させることが望ましい。しかしながら、フィルタケースの内筒と燃料ポンプとが全周において接触していると、ポンプモジュールの設置場所によっては、フィルタケースの内筒と燃料ポンプとの間に水が溜まることもある。例えば燃料ポンプと同等、もしくはそれ以上の長さを有するサブタンク内に燃料ポンプが設置される場合、燃料ポンプは上部まで燃料中に浸る。燃料中に微量ではあるが含まれる水分は燃料よりも比重が大きいので、水分が燃料と分離して下方に沈下し、フィルタケースの内筒と燃料ポンプとの間に水が溜まる。溜まった水は燃料ポンプの上部まで達することがある。

本発明の請求項 1 7 記載のポンプモジュールでは上記構成としたことにより、燃料ポンプの上方端面とフィルタケースの内筒の内周側面とにより形成される上方凹部に水が溜まらないので、燃料ポンプの上部に設置されている部品が腐食することを防止できる。

#### 【 0 0 1 4 】

本発明の請求項 1 8 記載のポンプモジュールによると、フィルタケースのうち、その内筒および外筒の各開口縁部に接続され燃料ポンプの吐出部の形成端部を覆う覆部は、燃料通路と給電用通路とを形成している。燃料通路は、吐出部と、フィルタケースにおけるフィルタエレメントの収容室とに接続されて連通し、燃料ポンプの吐出燃料を吐出部から収容室に向かって流通させる通路である。給電用通路は、燃料ポンプの受電端子を露出させ、給電線の給電端子側端部を通過させる通路である。そして燃料通路と吐出部との接続部分はシールされ、さらに給電用通路は燃料通路と連通しないように形成されている。これは次のような問題を解決するためである。

#### 【 0 0 1 5 】

前述した特開平 6 - 2 1 3 0 9 1 号公報に開示されているポンプモジュールでは、燃料ポンプの吐出部から吐出した燃料をフィルタエレメントに導く燃料通路が、フィルタケースの外筒の開口縁部に接続されたケースカバーと燃料ポンプの吐出部側端部との間に形成されている。またこのポンプモジュールでは、燃料ポンプとして電気駆動式のポンプが使用され、燃料ポンプに駆動電流を供給する給電線がケースカバーを貫通しているので、ケースカバーと給電線との間にシール

を設ける必要がある。したがって、燃料ポンプの故障時等に給電線を取り外すことは困難であり、メンテナンス性が悪い。

## 【0016】

本発明の請求項18記載のポンプモジュールでは上記構成としたことにより、給電線と給電用通路の通路壁との間をシールする必要性がなくなるので、給電線の給電端子と燃料ポンプの受電端子との着脱が自在となる。よって、燃料ポンプの故障時等に給電線を容易に取り外すことができるので、メンテナンス性が向上する。

## 【0017】

本発明の請求項19記載のポンプモジュールによると、フィルタケースは、非導電性の樹脂により形成され、燃料ポンプの金属製のポンプハウジングの全周を覆っている。フィルタケースは内筒と外筒とを有する筒状に形成され、内筒とポンプハウジングとの間は所定距離以下である。これは次のような問題を解決するためである。

## 【0018】

フィルタケースの内部に収容されているフィルタエレメントを燃料が通過するとき、非導電性のフィルタエレメントと燃料との摩擦などにより燃料フィルタが帯電する。そのため、帯電した燃料フィルタから静電気を逃がす必要がある。しかしながら、フィルタケースは一般に樹脂で形成されているため、電荷がフィルタケースを経由して移動することは困難である。燃料フィルタに帯電する静電気は数十kVの高電圧に達することがある。そのため、例えばフィルタケースなどを形成する材料の絶縁破壊強度を超えた電圧が長時間印加されると、樹脂で形成されたフィルタケースなどの損傷を招くという問題がある。また、近傍に存在する物体を誘導帯電させるという問題もある。

## 【0019】

そこで、フィルタケースあるいはフィルタエレメントを導電性の物質で形成することが考えられる。従来は、フィルタケースを導電性を高めるために、例えばカーボンを添加することにより導電性を高めた樹脂が用いられている。同様に、カーボンを添加することにより導電性を高めたろ紙がフィルタエレメントとして

用いられる。しかし、カーボンが添加された樹脂やろ紙は高価であり、コストの上昇を招くという問題がある。また、燃料ポンプとフィルタケースとの間は、燃料ポンプの作動時における振動および騒音を低減するため、所定の距離が確保されている。そのため、フィルタケースあるいはフィルタエレメントの導電性を高めた場合でも、フィルタケースから例えば燃料ポンプなど他の導電部位へアースを確保しなければならない。その結果、アース用の部品を追加する必要があり、部品点数の増大を招くという問題がある。

#### 【0020】

本発明の請求項19記載のポンプモジュールでは上記構成としたことにより、帯電した電荷はフィルタケースを経由して金属製のポンプハウジングへ消散される。フィルタケースは非導電性の樹脂であるものの、電荷が全く移動しないわけではない。そのため、ポンプハウジングとフィルタケースとの位置関係を設定することにより、電荷を燃料ポンプのポンプハウジングにアースすることができる。したがって、導電性の高い高価な樹脂ならびにアースのための部品を必要とすることなく、帯電した電荷を消散させることができる。

#### 【0021】

本発明の請求項20記載のポンプモジュールによると、タンク内にポンプモジュールを設置した状態で、プレッシャレギュレータの軸方向の長さは、フィルタケースの底部とタンクの内側底面との間隔よりも長い。フィルタケースの底部とタンクの内側底面との間にプレッシャレギュレータを設置できない燃料供給装置の構成において、フィルタケースの外周側方にプレッシャレギュレータを設置したことにより、ポンプモジュールの軸方向の長さを短縮してタンク内に収容できる。

#### 【0022】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を示す複数の実施例を図に基づいて説明する。

##### （第1実施例）

本発明の第1実施例によるポンプモジュールを用いた燃料供給装置を図2に示す。燃料供給装置10は、取付部材11、燃料吐出管12、電気コネクタ14、

金属パイプ18、スプリング19、サブタンク20、蛇腹管24およびポンプモジュール30等を有している。

#### 【0023】

取付部材11は円板状に形成されており、樹脂で一体成形された図示しない燃料タンクの上壁に係止されて取付けられている。燃料供給装置10の他の部品は燃料タンク内に収容されている。サブタンク20は燃料タンク内に収容され、ポンプモジュール30はサブタンク20内に収容されている。ポンプモジュール30の燃料ポンプ32は、中心軸100（図1参照）を鉛直方向に向けてサブタンク20内に設置されている。

#### 【0024】

取付部材11には、燃料吐出管12および電気コネクタ14が一体に樹脂成形されている。あるいは、燃料吐出管12および電気コネクタ14は別部品として取付部材11に組付けられていてもよい。燃料吐出管12は、燃料ポンプ32が吸入し吐出したサブタンク20内の燃料を燃料タンクの外部に供給する管である。電気コネクタ14は、給電線46および給電コネクタ50により受電コネクタ40と電気的に接続しており、燃料ポンプ32に電力を供給する。

#### 【0025】

金属パイプ18の一端は取付部材11に形成されている筒状のパイプ支持部16に圧入されており、他端は、サブタンク20に形成されているパイプ支持部22に緩く挿入されている。スプリング19は、取付部材11とサブタンク20とを互いに離れるように付勢している。このような構成により、樹脂製の燃料タンクが温度変化による内圧の変化や燃料量の変化で膨張および収縮しても、スプリング19の付勢力によりサブタンク20の底部は燃料タンクの内側底面に常に押し付けられている。

#### 【0026】

サブタンク20は密封されておらず、サブタンク20の上方は開口している。サブタンク20の底側外部に図示しないノズル部が設置されている。ノズル部は、サブタンク20に形成された図示しない燃料流入部に向け燃料ポンプ32が吐出する燃料の一部を噴射する。このとき発生する吸引圧により燃料タンク内の燃

料はサブタンク 20 内に吸い上げられる。サブタンクに設置したノズル部は、所謂ジェットポンプを構成している。そして、ジェットポンプで汲み上げた燃料がサブタンク 20 の外に流出することを防止する図示しない弁部材が設けられている。したがって、燃料タンク内の燃料量が減少しても、サブタンク 20 内は燃料で充満されている。

## 【 0 0 2 7 】

ポンプモジュール 30 は、燃料ポンプ 32、サクシヨンフィルタ 58、燃料フィルタ 60、およびプレッシャレギュレータ 80 等を有している。サクシヨンフィルタ 58 は、燃料ポンプ 32 がサブタンク 20 内から吸入する燃料に含まれる比較的大きな異物を捕集する。プレッシャレギュレータ 80 は燃料ポンプ 32 が吐出し燃料フィルタ 60 から流出する燃料の圧力を所定圧に調圧する。燃料フィルタ 60 は、燃料ポンプ 32 から吐出される燃料に含まれる比較的小さな異物を捕集する。

## 【 0 0 2 8 】

燃料ポンプ 32 は、内部に図示しない電気駆動部としてのモータを有し、モータとともに回転する回転部材、例えば外周縁に羽根片を有するインペラの回転により燃料吸引力を発生する。図 1 に示すように、燃料ポンプ 32 の上部は樹脂カバー 33 に覆われている。樹脂カバー 33 は、図 3 に示すように金属製のポンプハウジング 36 の端部にかしめ固定されている。図 2 に示すように、燃料ポンプ 32 は樹脂カバー 33 に形成されている吐出部 34 から燃料を吐出する。燃料ポンプ 32 がサブタンク 20 から吸入し加圧した燃料は、吐出部 34 から吐出されるとともに、一部がサブタンク 20 の底側外部に設置されている前述した図示しないノズル部から噴射される。吐出部 34 の内周側にフィルタケース 62 の燃料流入部 68 が嵌合している。吐出部 34 の内周壁とフィルタケース 62 の燃料流入部 68 の外周壁との間はリング 38 によりシールされている。リング 38 は吐出部 34 の内周壁に形成した段差 34 a に係止されているので、位置ずれを起こすことを防止されている。

## 【 0 0 2 9 】

図 3 に示すように、燃料ポンプ 32 の受電コネクタ 40 は、樹脂カバー 33 の

上方端面33aから突出するように樹脂カバー33に形成されている。受電コネクタ40のコネクタハウジング41は円筒状である。コネクタハウジング41は給電コネクタ50を収容するコネクタ凹部41aを有している。コネクタ凹部41aの内側底面42は、樹脂カバー33の上方端面33aと同じ高さである。コネクタ凹部41a内に、燃料ポンプ32のモータと電氣的に接続している受電端子43が露出している。コネクタハウジング41の側壁に、側壁を貫通する貫通穴44が形成されている。貫通穴44の下端位置は内側底面42まで達している。コネクタ凹部41aに入った水は貫通穴44を通りコネクタ凹部41aから排出される。図3の上方からコネクタ凹部41aに向けて給電コネクタ50を挿入すると、給電コネクタ50の爪54が貫通穴44に弾性力で嵌合する。爪54と貫通穴44とは、所謂スナップフィットして嵌合する。爪54を弾性変形させることにより、給電コネクタ50と受電コネクタ40とを容易に脱着できる。貫通穴44は、給電コネクタ50の爪54が嵌合する嵌合穴を兼ねている。

## 【0030】

給電線46は電気コネクタ14（図2参照）の端子と給電コネクタ50の給電端子52とを電氣的に接続している。給電コネクタ50のコネクタハウジング53は、受電コネクタ40の貫通穴44に弾性で嵌合する爪54を有している。爪54には突部55が形成されている。

## 【0031】

図1に示すサクシオンフィルタ58は、燃料ポンプ32の軸方向の一方の端部である下方に設置されており、厚肉の不織布を有している。従来、サクシオンフィルタとしては、メッシュ状の布あるいは薄手の不織布が使用されている。本実施例のように、厚肉の不織布でサクシオンフィルタ58を形成することにより、サクシオンフィルタ58で捕集される異物を大幅に増加させることができる。

## 【0032】

図4に示すように、サクシオンフィルタ58の外周の一部は切り欠かれ凹部59が形成されている。図1および図4に示す2点鎖線は、サクシオンフィルタ58の外周を切り欠けなかった場合のサクシオンフィルタ58の外形線102である。凹部59の最奥部はほぼフィルタケース62の内筒65の外周面に位置して



いる。サクシヨンフィルタ５８の中心は燃料ポンプ３２のほぼ中心軸１００（図１参照）上にある。サクシヨンフィルタ５８の中心は、凹部５９を形成する前のサクシヨンフィルタ５８の中心を意味する。

## 【 0 0 3 3 】

図１に示す燃料フィルタ６０は、フィルタケース６２、燃料流出部７０およびフィルタエレメント７８を有している。スナップリング４８はケース本体６４の下方開口部に嵌合している。スナップリング４８は、燃料ポンプ３２を係止し、フィルタケース６２から燃料ポンプ３２が脱落することを防止する。フィルタエレメント７８は、例えばハニカム状あるいは菊花状に形成されているろ紙であり、フィルタケース６２に収容されている。

## 【 0 0 3 4 】

フィルタケース６２は、ケース本体６４および蓋部７４を有しており、円筒状に形成されている。ケース本体６４は、燃料ポンプ３２の外周を覆い燃料ポンプ３２と接触している内筒６５と、内筒６５の外周側に設置されている外筒６６と、燃料流入部６８とを有している。ケース本体６４は樹脂で一体成形されている。ケース本体６４の図１の上方は、蓋部７４が内筒６５および外筒６６と結合することにより密封されている。

## 【 0 0 3 5 】

内筒６５は燃料ポンプ３２の全周を覆っており、外筒６６は内筒６５の外周側に設置され内筒６５の全周を覆っている。内筒６５と外筒６６との底部は結合している。燃料流入部６８は円筒状に形成され内筒６５と樹脂で一体成形されている。燃料流入部６８内に逆止弁７９が設置されている。逆止弁７９は、燃料ポンプ３２から吐出された燃料が燃料ポンプ３２に戻ることを防止する。吐出部３４、燃料流入部６８および逆止弁７９の軸方向の長さ範囲は重なっている。

## 【 0 0 3 6 】

ケース本体６４の外筒６６の下方に、フィルタエレメント７８を通過した燃料が流出する出口開口４０４が形成されている。燃料流出部７０は外筒６６と樹脂で一体成形されており、出口開口４０４と連通する流出通路４０６を有している。

フィルタエレメント78を通り異物を除去された燃料は、プレッシャレギュレータ80により燃料圧力を所定圧に調圧され、燃料流出部70の流出口71から流出する。流出口71から流出する燃料は、蛇腹管24を通り燃料吐出管12から吐出される。

## 【0037】

図3に示す樹脂カバー33の上方端面33aと、内筒65の内周側面65aと、蓋部74の内周側面74a（図1参照）とにより燃料ポンプ32の上方に上方凹部90が形成されている。上方凹部90の上方は開口しており、上方凹部90は給電用通路400を形成している。フィルタケース62と燃料ポンプ32とを組付けた後、上方凹部90の開口を通り受電コネクタ40に給電コネクタ50を嵌合することができる。

## 【0038】

内筒65の内周側面65aと燃料ポンプ32のポンプハウジング36の外周側面36aとの間に、周方向に1箇所以上、水抜き通路402が形成されている。水抜き通路402が形成されている以外の箇所において、内筒65とポンプハウジング36とは、接触しているか、あるいは水が落下しない程度の間隔に設定されている。

水抜き通路402は、内筒65またはポンプハウジング36に形成した溝により形成してもよいが、図5に示すように、内筒65の形状を僅かに歪めて形成することが望ましい。これは、フィルタエレメント78の変形を極力低減するためである。

## 【0039】

前述した図示しないノズル部のジェットポンプとしての作動、ならびに汲み上げた燃料がサブタンク20の外に流出することを防止する図示しない弁体の構成により、サブタンク20内には燃料が満たされている。燃料タンク内の燃料が少量であっても、その少量燃料の多くはサブタンク20内に溜められる。したがって、燃料タンク内の燃料量の多少に関わらず、受電コネクタ40の受電端子43と給電コネクタ50の給電端子52とはサブタンク20内に溜められた燃料中で接続している。燃料中に僅かに含まれている水分は、燃料よりも比重が大きいので

で燃料と分離し下方に沈下する。上方凹部90の底に沈下した水分は、水抜き通路402を通り燃料ポンプ32の下方に排出される。燃料タンク内の燃料量の多少に関わらず受電端子43と給電端子52との接続箇所が燃料に覆われていても、受電コネクタ40の受電端子43と給電コネクタ50の給電端子52との接続箇所に水が溜まらないので、受電コネクタ40の受電端子43と給電コネクタ50の給電端子52とが腐食することを防止し、端子同士の電氣的接触不良が発生することを防止できる。これにより、燃料ポンプ32の動作不良を防止できる。

#### 【0040】

プレッシャレギュレータ80は、ケース本体64の外周側方にフィルタケース62の軸方向の一方の端部であるフィルタケース62の下方側に設置されている。プレッシャレギュレータ80の排出通路83側はケース本体64の外周側面に接しているため、プレッシャレギュレータ80はフィルタケース62の外周側面に設置されているともいえる。プレッシャレギュレータ80はフィルタケース62を軸方向に投影した投影領域に一部が存在している。

#### 【0041】

プレッシャレギュレータ80はサクシヨンフィルタ58と軸方向の同じ側に設置されており、サクシヨンフィルタ58と軸方向の長さ範囲で重なっている。プレッシャレギュレータ80の下方端部は、サクシヨンフィルタ58の外周を切り欠く前の外形線102と凹部59とにより形成される領域、つまりサクシヨンフィルタ58の外周を切り欠いて形成した切り欠き領域104に位置している。図1に示すプレッシャレギュレータ80の設置位置では、外周の一部を切り欠かず凹部59を形成していないサクシヨンフィルタ58と干渉する。

サブタンク20内にポンプモジュール30を収容した図2に示す状態で、プレッシャレギュレータ80の軸方向の長さは、フィルタケース62の底部とサブタンク20の内側底面との間隔よりも長い。

#### 【0042】

プレッシャレギュレータ80は、燃料流出部70を貫通する貫通部72に挿入されている。プレッシャレギュレータ80は貫通部72の一方の開口を閉塞している。したがって、貫通部72の一方の開口を閉塞するための部材が不要である。

。プレッシャレギュレータ 8 0 の流入通路 8 2 は燃料流出部 7 0 内で流出通路 4 0 6 と連通しており、プレッシャレギュレータ 8 0 の排出通路 8 3 は貫通部 7 2 の他方の開口である排出通路 4 0 8 と連通している。燃料フィルタ 6 0 から流出する燃料のうちプレッシャレギュレータ 8 0 で調圧された燃料は流出口 7 1 から流出し、余剰燃料は排出通路 8 3、4 0 8 を通りサブタンク 2 0 内に環流される。フィルタケース 6 2 からプレッシャレギュレータ 8 0 の流入通路 8 2 に流入する燃料の方向と、プレッシャレギュレータ 8 0 の排出通路 8 3 から排出される燃料の方向は反対である。

図 6 にポンプモジュール 3 0 を組み立てる状態を示す。各部材の組付方向が軸方向と中心軸に直交する方向の 2 方向であるから、ポンプモジュール 3 0 の組立は容易である。

#### 【 0 0 4 3 】

第 1 実施例のポンプモジュール 3 0 では、フィルタケース 6 2 の外周側面にプレッシャレギュレータ 8 0 が設置されているので、軸方向におけるフィルタケース 6 2 の長さ範囲内にプレッシャレギュレータ 8 0 の一部が位置している。軸方向に占める燃料フィルタ 6 0 とプレッシャレギュレータ 8 0 との長さの合計は、燃料フィルタ 6 0 とプレッシャレギュレータ 8 0 との軸方向の長さの合計よりも短くなる。したがって、ポンプモジュール 3 0 全体として、軸方向の長さが短くなる。

また、フィルタケース 6 2 の軸方向の投影領域にプレッシャレギュレータ 8 0 の一部が含まれているので、フィルタケース 6 2 およびプレッシャレギュレータ 8 0 が中心軸と直交する径方向に占める長さが短くなる。

#### 【 0 0 4 4 】

ポンプモジュール 3 0 では、吐出部 3 4 内に燃料流入部 6 8 が嵌合し、その燃料流入部 6 8 内に逆止弁 7 9 が設置されている。そして、吐出部 3 4、燃料流入部 6 8 および逆止弁 7 9 は軸方向の長さ範囲が重なっているため、燃料ポンプ 3 2 の軸方向における全長が短縮されている。

#### 【 0 0 4 5 】

さらにポンプモジュール 3 0 では、フィルタケース 6 2 のうち内筒 6 5、外筒

66および燃料流入部68が樹脂で一体成形され、フィルタケース62と燃料流出部70とが樹脂で一体成形されている。そのため、部品点数が減少し燃料フィルタ60の組立時において上記一体成形品と蓋部74とを同時に溶着することができるので、組立作業が簡素となり、組立工数が低減される。

#### 【0046】

第1実施例では、内筒65の内周側面65aと燃料ポンプ32の樹脂カバー33の上方端面33aと蓋部74の内周側面74aとにより上方凹部90が形成され、上方凹部90の図1および図2に示す上方が開口している。さらに、吐出部34の内周壁と燃料流入部68の外周壁との間をリング38がシールしているので、上方凹部90が形成する給電用通路400側に燃料が漏れない。給電線46と給電用通路400との間におけるシールを省くことができるので、上方凹部90の開口を通り、給電コネクタ50と受電コネクタ40とを容易に脱着できる。また、受電コネクタ40から給電コネクタ50を抜き、フィルタケース62からスナップリング48を取り外すことにより、燃料ポンプ32または燃料フィルタ60をそれぞれ容易に交換できる。

#### 【0047】

またポンプモジュール30では、逆止弁79が燃料流入部68内に設置され、リング38が燃料流入部68の外周壁と燃料流入部68を収容している吐出部34の内周壁との間をシールしているので、リング38から燃料がリークしたとしても燃料流入部68から先の流路において残圧を確実に保持できる。したがって、エンジンの始動時においてポンプモジュール30は、保持された残圧を利用して即座に燃料を供給することが可能となる。

#### 【0048】

第1実施例では、サクシオンフィルタ58の外周の一部を切り欠いた切り欠き領域104にプレッシャレギュレータ80の一部が位置しているので、フィルタケース62の下方に設置したプレッシャレギュレータ80と燃料ポンプ32の下方に設置されているサクシオンフィルタ58とが干渉しない。サクシオンフィルタ58とプレッシャレギュレータ80とを軸方向に離すことなくポンプモジュール30の中心に近づけてプレッシャレギュレータ80を設置できるので、ポンプ

モジュール 30 の軸方向および径方向の長さを短くすることができる。したがって、ポンプモジュールを小型化できる。

## 【0049】

第 1 実施例では、サクシオンフィルタ 58 の切り欠き領域 104 にプレッシャレギュレータ 80 の少なくとも一部を設置したが、サクシオンフィルタ 58 の中央側にプレッシャレギュレータ 80 をさらに近づけプレッシャレギュレータ 80 の少なくとも一部をサクシオンフィルタ 58 の凹部 59 内に設置してもよい。サクシオンフィルタの切り欠き形状は直線状でも L 字状でもよい。

## 【0050】

また、サクシオンフィルタ 58 およびプレッシャレギュレータ 80 が軸方向の同じ側に設置され、サクシオンフィルタ 58 およびプレッシャレギュレータ 80 が軸方向の長さ範囲で重なっていれば、外周の一部を切り欠いていないサクシオンフィルタの外周側にプレッシャレギュレータ 80 を設置してもよい。

## 【0051】

(第 2 実施例、第 3 実施例、第 4 実施例)

本発明の第 2 実施例を図 7 に、第 3 実施例を図 8 に、第 4 実施例を図 9 に示す。第 1 実施例と実質的に同一構成部分に同一符号を付し、説明を省略する。

図 7 に示す第 2 実施例のポンプモジュール 110 では、フィルタケース 62 の軸方向の長さ範囲内にプレッシャレギュレータ 80 が含まれている。プレッシャレギュレータ 80 はケース本体 64 の外周側方に設置されており、ケース本体の 64 の外周側面から外側に離れている。プレッシャレギュレータ 80 とフィルタケース 62 とは、ケース本体 64 と一体成形の燃料流出部 70 により接続されているが、別体の配管で接続される構成でもよい。

## 【0052】

図 8 に示す第 3 実施例では、ポンプモジュール 120 のフィルタケース 122 およびフィルタエレメント 124 の軸方向の長さは第 1 実施例よりも長くなっている。そして、フィルタケース 122 の下端位置 122a と燃料ポンプ 32 の下端位置 32a とはほぼ一致している。

図 9 に示す第 4 実施例では、ポンプモジュール 130 のフィルタケース 132

およびフィルタエレメント 1 3 4 の軸方向の長さは第 1 実施例よりも長くなっている。そして、フィルタエレメント 1 3 4 の下端位置 1 3 4 a と燃料ポンプ 3 2 の下端位置 3 2 a とはほぼ一致している。

【 0 0 5 3 】

## (第 5 実施例)

本発明の第 5 実施例を図 1 0 に示す。第 1 実施例と実質的に同一構成部分に同一符号を付し、説明を省略する。

ポンプモジュール 1 4 0 のプレッシャレギュレータ 1 4 2 はフィルタケース 6 2 の外周側方に設置されている。フィルタケース 6 2 からプレッシャレギュレータ 1 4 2 の流入通路 1 4 3 に流入する燃料の方向と、プレッシャレギュレータ 1 4 2 の排出通路 1 4 4 から排出される燃料の方向は同じである。

【 0 0 5 4 】

## (第 6 実施例)

本発明の第 6 実施例を図 1 1 に示す。第 1 実施例と実質的に同一構成部分に同一符号を付し、説明を省略する。

ポンプモジュール 1 5 0 の燃料ポンプ 1 5 6 の吐出部 3 4 はほぼ燃料ポンプ 1 5 6 の中心軸 1 0 0 上にある。吐出部 3 4 の位置にしたがい、燃料フィルタ 1 5 2 のフィルタケース 1 5 4 の燃料流入部 6 8 もほぼ燃料ポンプ 1 5 6 の中心軸 1 0 0 上にある。言い換えると、吐出部 3 4 および燃料流入部 6 8 は、フィルタケース 1 5 4 の中心軸上にある。

【 0 0 5 5 】

燃料ポンプ 1 5 6 は電気駆動式であり、モータとともに回転部材が回転することにより燃料を吸引し、吐出部 3 4 から吐出する。燃料ポンプ 1 5 6 内を流れる燃料が中心軸上に位置する吐出部 3 4 に均等に集まり吐出される。燃料ポンプ 1 5 6 内から吐出部 3 4 に向かう燃料流れに乱れが生じにくいので、燃料ポンプ 1 5 6 の振動を抑制できる。

【 0 0 5 6 】

## (第 7 実施例)

本発明の第 7 実施例を図 1 2 に示す。第 1 実施例と実質的に同一構成部分に同

一符号を付し、説明を省略する。

ポンプモジュール160の燃料ポンプ170の吐出部172は、燃料フィルタ162のフィルタケース164の燃料流入部166内に嵌合している。吐出部172の内周に逆止弁79が収容されている。

【0057】

フィルタケース164の燃料流入部166、燃料ポンプ170の吐出部172および逆止弁79は軸方向の長さ範囲が重なっているため、フィルタケース164の燃料流入部166、燃料ポンプ170の吐出部172および逆止弁79が軸方向に占める長さを極力短くできる。

【0058】

(第8実施例)

本発明の第8実施例を図13に示す。第1実施例と実質的に同一構成部分に同一符号を付し、説明を省略する。

第1実施例から第7実施例の燃料ポンプに比べ、第8実施例のポンプモジュール180の燃料ポンプ190は軸方向の長さが長くなっている。したがって、燃料フィルタ182のフィルタケース184が燃料ポンプ190の全周を覆い軸方向に延びる長さも長くなっている。プレッシャレギュレータ80はフィルタケース184の外周側方である外周側面に設置されている。

【0059】

(第9実施例)

本発明の第9実施例によるポンプモジュールを図14～図17に示す。第1実施例と実質的に同一構成部分に同一符号を付す。

図14に示すポンプモジュール200は、第1実施例と同様にサブタンク20(図2参照)内に収容されている。サブタンク20は、車両に搭載された図示しない燃料タンクの内部に収容されている。ポンプモジュール200は、サクシオンフィルタ58、燃料ポンプ202、燃料フィルタ210およびプレッシャレギュレータ80等を備えている。

【0060】

燃料ポンプ202は固定台208により燃料フィルタ210に固定されている



。燃料ポンプ202は、電気駆動部としてのモータ（図示しない）を有している。モータは燃料ポンプ202内に回転可能に收容され、その回転により燃料の吸引力を発生する。燃料ポンプ202の上端部（以下、ポンプ上端部という）204は吐出部205を形成している。吐出部205は燃料ポンプ202の中心軸100上に設置されている（図17参照）。

## 【0061】

燃料ポンプ202は、そのモータの駆動電流を給電線46を通じて供給される。具体的には、ポンプ上端部204のうち吐出部205の外周となる部分に受電コネクタ40が設けられている。受電コネクタ40は、コネクタハウジング41と受電端子43とを有している。受電端子43は、燃料ポンプ202のモータに電氣的に接続されている。コネクタ凹部41aはポンプ上端部204の端面に開口し、その底壁から受電端子43を突出させている。コネクタ凹部41aには、給電線46の端部に設けられ給電端子52を有する給電コネクタ50が嵌合されている。コネクタ凹部41aに嵌合された給電コネクタ50の給電端子52は受電端子43と接触することで、給電線46と受電端子43とを電氣的に接続する。

## 【0062】

燃料フィルタ210は、燃料ポンプ202から吐出される燃料に含まれる比較的小さな異物を捕集する。燃料フィルタ210は、樹脂製の燃料流出部70、フィルタエレメント78および樹脂製のフィルタケース212等から構成されている。

フィルタケース212は固定台208によりサブタンク20に固定されている。フィルタケース212は、内筒213、外筒214、底壁部215、覆壁部220および蓋部230を有している。フィルタケース212と燃料流出部70とは樹脂で一体成形されている。

## 【0063】

燃料流出部70は流出口71を有し、プレッシャレギュレータ80を收容している。外筒214の下端部に設けられた出口開口404から燃料流出部70内に流入する燃料は、プレッシャレギュレータ80により燃料圧力を所定圧に調圧さ

れ、流出口 7 1 から流出する。流出口 7 1 から流出する燃料は、燃料流出部 7 0 に連結される蛇腹管 2 4 (図 2 参照) を通り燃料吐出管 1 2 (図 2 参照) から燃料タンクの外部に吐出される。

## 【 0 0 6 4 】

内筒 2 1 3 は燃料ポンプ 2 0 2 の外周を覆っている。外筒 2 1 4 は、内筒 2 1 3 よりも大径に形成され、内筒 2 1 3 の外周側に設置され内筒 2 1 3 の外周を覆っている。内筒 2 1 3 および外筒 2 1 4 の各中心軸は、燃料ポンプ 2 0 2 の中心軸 1 0 0 に一致している。これにより内筒 2 1 3 と外筒 2 1 4 との間に断面円環状の空間 2 1 7 が形成され、その空間 2 1 7 に円筒状のフィルタエレメント 7 8 が収容されている。すなわち、空間 2 1 7 およびフィルタエレメント 7 8 と、燃料ポンプ 2 0 2 の吐出部 2 0 5 とは同心上に設置されている。以下、空間 2 1 7 を収容室 2 1 7 という。内筒 2 1 3 および外筒 2 1 4 の各下側開口縁部には円環板状の底壁部 2 1 5 が接続され、この底壁部 2 1 5 により収容室 2 1 7 の下端部が閉塞されている。底壁部 2 1 5 は、内筒 2 1 3 および外筒 2 1 4 との一体成形により形成されている。

## 【 0 0 6 5 】

覆壁部 2 2 0 は、内筒 2 1 3 の上側開口縁部 2 1 3 a に接続され、ポンプ上部部 2 0 4 を覆っている。覆壁部 2 2 0 は、内筒 2 1 3 および外筒 2 1 4 との一体成形により形成されている。蓋部 2 3 0 は、外筒 2 1 4 の上側開口縁部 2 1 4 a と覆壁部 2 2 0 の反燃料ポンプ側の上壁とに接続され、収容室 2 1 7 の上端部を覆っている。蓋部 2 3 0 は、外筒 2 1 4 と覆壁部 2 2 0 とに溶着固定されている。覆壁部 2 2 0 と蓋部 2 3 0 とは互いに共同して燃料通路 2 3 2 を形成している。燃料通路 2 3 2 は、上通路 2 1 8 a と下通路 2 3 3 a、2 3 3 b、2 3 3 c とからなる。燃料通路 2 3 2 は、燃料ポンプ 2 0 2 の吐出部 2 0 5 内と収容室 2 1 7 の上端部側とに連通しており、燃料ポンプ 2 0 2 の吐出燃料を吐出部 2 0 5 から収容室 2 1 7 に向かって流通させることができる。本実施例では、覆壁部 2 2 0 と蓋部 2 3 0 とが共同して特許請求の範囲に記載の「覆部」を構成し、覆壁部 2 2 0 と蓋部 2 3 0 とがそれぞれ、第一分割部と第二分割部とを構成している。

## 【 0 0 6 6 】

具体的に覆壁部220には、吐出部205の内周側に嵌合する円筒状の燃料流入部218が形成されている。燃料流入部218は、吐出部205に同心上に嵌合されている。燃料流入部218内に形成されている通路である上通路218aと吐出部205内に形成されている通路とは連通しており、上通路218aに燃料ポンプ202の吐出燃料が流入する。上通路218aは燃料通路232の上流側を構成している。リング38は、燃料流入部218の外周壁と吐出部205の内周壁との間に介装され、燃料流入部218と吐出部205との嵌合部から燃料が漏れることを防止している。上通路218aには、吐出部205への燃料の逆流を防止する逆止弁79が設置されている。

#### 【0067】

図16に示すように、覆壁部220の上壁には、その壁面に開口する三つの下側通路溝221a、221b、221cが形成されている。下側通路溝221a、221b、221cは、燃料ポンプ202の吐出部205が位置する中心軸100上から、収容室217の周方向で互いに等間隔に離間する三箇所に向かって放射線状に延びている。各下側通路溝221a、221b、221cの中心軸100側の端部は、燃料流入部218の内周壁の上縁部に連なっている。また各下側通路溝221a、221b、221cの収容室217側の端部は、内筒213の上側開口縁部213aに連なっている。

#### 【0068】

図15に示すように、蓋部230の覆壁部220側の下壁には、その壁面に開口する三つの上側通路溝231a、231b、231cが形成されている。上側通路溝231a、231b、231cはそれぞれ、下側通路溝221a、221b、221cに正対する位置を放射線状に延びている。そして上側通路溝231aと下側通路溝221aとで下通路233aが、上側通路溝231bと下側通路溝221bとで下通路233bが、上側通路溝231cと下側通路溝221cとで下通路233cがそれぞれ形成されている。このように覆壁部220と蓋部230との間に形成される下通路233a、233b、233cはいずれも、中心軸100側の端部で上通路218aに連通し、収容室217側の端部で収容室217の上端部に連通している。これにより下通路233a、233b、233c

は、上通路 218a に流入した燃料を吐出部 205 の中心軸 100 上から収容室 217 の周方向の三箇所に向かって流通させる。下通路 233a、233b、233c は燃料通路 232 の下流側を構成している。

#### 【0069】

覆壁部 220 および蓋部 230 には、図 15 および図 16 に示すように、それらを共に貫通する 3 つの貫通孔 235a、235b、235c が形成されている。貫通孔 235a は下通路 233a と下通路 233b との間を、貫通孔 235b は下通路 233b と下通路 233c との間を、貫通孔 235c は下通路 233c と下通路 233a との間をそれぞれ、燃料ポンプ 202 の中心軸 100 に平行な鉛直方向に延びている。これにより各貫通孔 235a、235b、235c は、上通路 218a および下通路 233a、233b、233c からなる燃料通路 232 に非連通となっている。三つの貫通孔 235a、235b、235c のうち貫通孔 235a はポンプ上端部 204 の受電コネクタ 40 の上方に設置されている。貫通孔 235a は、図 15 に示すように給電線 46 を取り外した状態で受電端子 43 を露出させることができる。図 14 に示すように給電コネクタ 50 をコネクタ凹部 41a に嵌合して給電線 46 を取付けた状態では、給電線 46 の給電コネクタ 50（給電端子 52）側の端部が貫通孔 235a 内に通されている。貫通孔 235a が特許請求の範囲に記載の「給電用通路」を構成している。

#### 【0070】

図 16 に示すように、フィルタエレメント 78 は、燃料通路 232 により収容室 217 の上端部に搬送される燃料を収容室 217 の中心軸（ここでは、燃料ポンプ 202 の中心軸 100 に一致する）に平行な鉛直方向下側に向かって通過させる。これによりフィルタエレメント 78 は燃料を濾過して異物を除去する。フィルタエレメント 78 と内筒 213 との間はシール部材 237 でシールされ、フィルタエレメント 78 と外筒 214 との間はシール部材 238 でシールされている。

#### 【0071】

次に、ポンプモジュール 200 の作動について説明する。

車両のエンジンが駆動され、給電線 46 から燃料ポンプ 202 に駆動電流が供

給されると、燃料ポンプ202はサブタンク20内の燃料をサクシオンフィルタ58を通して吸入して加圧し、吐出部205から吐出する。このとき、吐出部205が燃料ポンプ202の中心軸100上に設けられていることにより、燃料ポンプ202の内部では乱流が発生し難いため、燃料ポンプ202の振動（脈動）が比較的小さくなる。

## 【0072】

燃料ポンプ202から吐出された燃料は、燃料通路232を通じて収容室217に搬送され、フィルタエレメント78をその上端部側から下端部側に向かって通過して濾過される。このとき燃料通路232の下通路233a、233b、233cは、吐出部205の中心軸100上から収容室217の周方向の三箇所に向かう燃料流れをそれぞれ生む。すなわち、三方向に向かう上記燃料流れの経路である下通路233a、233b、233cの長さが互いに等しいので、フィルタエレメント78に流入する燃料の流速が均一となり、フィルタエレメント78の振動（脈動）が抑制される。

フィルタエレメント78を通過した燃料は、プレッシャレギュレータ80で調圧された後、燃料吐出管12（図2参照）を経て燃料タンク外部のエンジンに供給される。

## 【0073】

以上説明した第9実施例のポンプモジュール200では、燃料流入部218の外周壁と吐出部205の内周壁との間をリング38がシールしている。つまり、燃料通路232の上通路218aと吐出部205内の通路との接続部分をリング38がシールしているので、貫通孔235a側に燃料が漏れない。したがって、給電線46と貫通孔235aの周壁との間におけるシールが省かれている。しかもポンプモジュール200では、給電線46の給電コネクタ50を受電コネクタ40のコネクタ凹部41aに嵌合するだけで、給電線46の給電端子52と燃料ポンプ202の受電端子43とを自在に着脱できる。したがって、燃料ポンプ202の故障時等に給電線46を簡単に取り外すことができるので、メンテナンスが容易となる。

## 【0074】

またポンプモジュール 200 では、逆止弁 79 が上通路 218a に収容され、しかも Oリング 38 が上通路 218a と吐出部 205 との接続部分を上通路 218a の外部でシールしているので、Oリング 38 から燃料がリークしたとしても上通路 218a から先の流路において残圧を確実に保持できる。したがって、エンジンの始動時においてポンプモジュール 200 は、保持された残圧を利用して即座に燃料を供給することが可能となる。さらにポンプモジュール 200 では、吐出部 205 内に燃料流入部 218 が嵌合し、その燃料流入部 218 内に逆止弁 79 が設置されているので、燃料ポンプ 202 の軸方向における全長が短縮されている。

## 【0075】

さらにポンプモジュール 200 では、フィルタケース 212 のうち内筒 213、外筒 214、底壁部 215、および覆壁部 220 が樹脂で一体成形され、フィルタケース 212 と燃料流出部 70 とが樹脂で一体成形されている。そして、蓋部 230 が外筒 214 の上側開口縁部 214a と覆壁部 220 の反ポンプ上端部側とに溶着されている。そのため、フィルタケース 212 の組立時において上記一体成形品の外筒 214 と覆壁部 220 とに蓋部 230 を同時に溶着することができるので、組立作業が簡素となり、組立工数が低減される。

## 【0076】

## (第 10 実施例)

本発明の第 10 実施例によるポンプモジュールを図 18～図 20 に示す。第 9 実施例と実質的に同一の構成部分には同一符号を付し、説明を省略する。

図 18 に示す第 10 実施例のポンプモジュール 240 では、フィルタケース 242 の覆壁部 244 と蓋部 250 との間に、第 9 実施例のような三つの放射線状の下通路 233a、233b、233c に代え、図 19 および図 20 に示す一つの断面扇形の下通路 260 が形成されている。上通路 218a および下通路 260 により燃料通路 262 が構成されている。燃料通路 262 は吐出部 205 から吐出された燃料を収容室 217 に流す通路である。

## 【0077】

具体的には、覆壁部 244 の上壁面が凹まされて下側通路凹部 245 が形成さ

れている。下側通路凹部 2 4 5 は、吐出部 2 0 5 が位置する燃料ポンプ 2 0 2 の中心軸 1 0 0 を中心とする概ね扇形断面で凹んでいる。下側通路凹部 2 4 5 の中心軸 1 0 0 近傍部分は、燃料流入部 2 1 8 の内周壁の上縁部に連なっている。また、下側通路凹部 2 4 5 の扇形断面形状において弧 2 4 5 a となる収容室 2 1 7 の近傍部分は、内筒 2 1 3 の上側開口縁部 2 1 3 a に連なっている。蓋部 2 5 0 には、その下壁面が凹まされて上側通路凹部 2 5 1 が形成されている。上側通路凹部 2 5 1 は、下側通路凹部 2 4 5 に正対する位置に下側通路凹部 2 4 5 と同様な扇形断面で凹んでいる。そして、互いに向き合う上側通路凹部 2 5 1 と下側通路凹部 2 4 5 とで下通路 2 6 0 が形成されている。覆壁部 2 4 4 と蓋部 2 5 0 との間に形成される下通路 2 6 0 は、中心軸 1 0 0 の近傍で上通路 2 1 8 a に連通し、収容室 2 1 7 側端部で収容室 2 1 7 の上端部に連通している。下通路 2 6 0 は、吐出部 2 0 5 の中心軸 1 0 0 上から収容室 2 1 7 に向け下通路 2 6 0 の扇形断面形状を規定する弧 2 4 5 a の外周側となる任意の複数箇所に向かって上通路 2 1 8 a から流入した燃料を流通させる。すなわち下通路 2 6 0 は燃料通路 2 6 2 の下流側を構成している。本実施例では、下通路 2 6 0 の扇形断面形状を規定する上記弧 2 4 5 a が優弧とされ、燃料流れの経路が広範囲に亘って確保されている。

#### 【 0 0 7 8 】

このようなポンプモジュール 2 4 0 では、燃料通路 2 6 2 の下通路 2 6 0 によって生じる燃料流れ、つまり吐出部 2 0 5 の中心軸 1 0 0 上から上記弧 2 4 5 a の外周側となる複数箇所への燃料流れについて、その経路長さが収容室 2 1 7 の周方向で一定となる。これにより、フィルタエレメント 7 8 に流入する燃料の流速が均一となるため、フィルタエレメント 7 8 の振動（脈動）を抑制できる。

#### 【 0 0 7 9 】

ポンプモジュール 2 4 0 では、上述したように燃料通路 2 6 2 の下通路 2 6 0 が第 9 実施例のように分岐していない。そのためポンプモジュール 2 4 0 では、第 9 実施例の三つの貫通孔のうち給電用通路を構成する貫通孔 2 3 5 a のみが設けられている。この貫通孔 2 3 5 a は、覆壁部 2 4 4 および蓋部 2 5 0 において下側通路凹部 2 4 5 および上側通路凹部 2 5 1 がそれぞれ設けられていない部位

を、燃料ポンプ202の中心軸100に平行な鉛直方向に延びている。これにより貫通孔235aは、上通路218aおよび下通路260からなる燃料通路262に非連通となっている。そして本実施例においても、給電線46と貫通孔235aの周壁との間をシールする必要はないので、燃料ポンプ202の故障時等に給電線46を取り外すことで、容易にメンテナンスを行うことができる。

## 【0080】

尚、上記第9実施例および第10実施例では、三つに分岐した放射線状の下通路233a、233b、233c又は吐出部205の中心軸100を中心とする一つの下通路260により、吐出部205の中心軸100上から収容室217の周方向の複数箇所それぞれ向かう複数の燃料流れを生じさせている。これに対し、放射線状に二つ又は四つ以上に分岐した通路や、吐出部の中心軸を中心とする扇形断面の通路の複数により、上記複数の燃料流れを生じさせるようにしてもよい。

## 【0081】

また上記第9実施例および第10実施例では、燃料ポンプ202の吐出部205が燃料ポンプ202の中心軸100上に設けられ、またその吐出部205が収容室217に対しても同心上に設置されている。これに対し、吐出部を燃料ポンプの中心軸から偏心させて設けてもよいし、吐出部を収容室の中心軸から偏心させて設置してもよい。

さらに上記第9実施例および第10実施例では、第一分割部としての覆壁部220、244と第二分割部としての蓋部230、250とにより覆部が構成されているが、一つの部材や三つ以上の分割部材で覆部を構成してもよい。

## 【0082】

またさらに上記第9実施例および第10実施例では、上通路218aと吐出部205との接続部分のシール箇所が上通路218aの外部に設けられ、吐出部205への燃料の逆流を防止する逆止弁79が上通路218aに設置されている。これに対し、吐出部への燃料逆流を防止する逆止弁を吐出部よりも上流側の燃料ポンプの内部に設置してもよい。

## 【0083】



## (第11実施例)

本発明の第11実施例によるポンプモジュールを図21に示す。第1実施例と実質的に同一構成部分に同一符号を付し説明を省略する。

図21に示すポンプモジュール300は、第1実施例と同様にサブタンク20(図2参照)内に収容されている。サブタンク20は、車両に搭載された図示しない燃料タンクの内部に収容されている。ポンプモジュール300は、サクシジョンフィルタ58、燃料ポンプ302、燃料フィルタ320およびプレッシャレギュレータ80等を備えている。

## 【0084】

ポンプモジュール300の燃料ポンプ302は、内部にモータ304を有し、モータ304の回転により燃料吸引力を発生する。燃料ポンプ302の上部は樹脂カバー306に覆われている。モータ304は外周側に設置されている金属製のポンプハウジング308に収容されている。樹脂カバー306は、ポンプハウジング308によりかしめ固定されている。燃料ポンプ302は、サクシジョンフィルタ58を通過した燃料を吸入し、インペラ310により加圧した後、吐出部34から吐出される。

## 【0085】

燃料フィルタ320は、フィルタケース322およびフィルタエレメント78を有している。フィルタエレメント78はフィルタケース322に収容されている。フィルタケース322は、ケース本体324および蓋部74を有しており、円筒状に形成されている。ケース本体324は、燃料ポンプ302のポンプハウジング308の外周を覆う内筒325と、内筒325の外周側に設置され内筒325の外周を覆う外筒326とを有している。内筒325の内周壁325aとポンプハウジング308の外周壁308aとの間は所定の距離以下となっている。また、燃料フィルタ320は、燃料ポンプ302のポンプハウジング308の外周を周方向へ50%以上覆っている。ケース本体324の内筒325と外筒326とは、径方向の長さすなわち肉厚が異なっている。ケース本体324の内筒325は、外筒326よりも肉厚が薄く形成されている。そのため、ケース本体324内の燃料の圧力により、肉厚の薄い内筒325は外筒326よりも大きく変

形する。その結果、内筒 3 2 5 は径方向内側すなわち燃料ポンプ 3 0 2 のポンプハウジング 3 0 8 側へ変形する。

#### 【 0 0 8 6 】

ケース本体 3 2 4 の図 2 1 の上方は、蓋部 7 4 が内筒 3 2 5 と外筒 3 2 6 とを結合することにより密封されている。ケース本体 3 2 4 の燃料流入部 6 8 は燃料ポンプ 3 0 2 の吐出部 3 4 の内周に嵌合している。フィルタエレメント 7 8 を通り異物が除去された燃料は、プレッシャレギュレータ 8 0 により燃料圧力を所定圧に調圧され、燃料流出部 7 0 から流出する。

#### 【 0 0 8 7 】

次に、本実施例の燃料フィルタ 3 2 0 のフィルタケース 3 2 2 について詳細に説明する。

フィルタケース 3 2 2 を構成するケース本体 3 2 4 および蓋部 7 4 は、ポリオキシメチレン (POM) などのポリアセタール樹脂により形成されている。POM 樹脂は、非導電性の樹脂であり、体積固有抵抗値が  $10^{14}\Omega\text{cm}$  程度である。これは、例えば樹脂中にカーボンを分散させた導電性の樹脂の体積固有抵抗値  $10^2\Omega\text{cm}$  程度と比較して非常に大きくなっている。体積固有抵抗値は、樹脂中の電荷の移動しにくさを示す指標であり、体積固有抵抗値が大きくなるほど樹脂中の電荷の移動は困難になる。

#### 【 0 0 8 8 】

上記のようにケース本体 3 2 4 の内筒 3 2 5 の内周壁 3 2 5 a と燃料ポンプ 3 0 2 のポンプハウジング 3 0 8 の外周壁 3 0 8 a との間は所定の距離以下であり、その距離は 1 mm 以下である。本実施例では、内周壁 3 2 5 a と外周壁 3 0 8 a とは接触しており、内周壁 3 2 5 a と外周壁 3 0 8 a との間の距離はほぼ 0 である。また、本実施例の場合、図 2 2 に示すように燃料フィルタ 3 2 0 の内筒 3 2 5 は、燃料ポンプ 3 0 2 のポンプハウジング 3 0 8 の外周を周方向へ全周すなわち 100% 覆っている。内周壁 3 2 5 a と外周壁 3 0 8 a との間の距離を 1 mm 以下としている理由、ならびに内筒 3 2 5 が燃料ポンプ 3 0 2 のポンプハウジング 3 0 8 の外周を周方向へ 50% 以上覆っている理由は次の通りである。

#### 【 0 0 8 9 】

フィルタケース322に収容されたフィルタエレメント78を燃料が通過することにより、フィルタエレメント78と燃料との間には摩擦が生じ、静電気が発生する。発生した静電気は、樹脂製品を損傷させるおそれがあるため、安全性の面から速やかに放電させることが好ましい。そこで、本実施例では、フィルタケース322の帯電圧が2kV以下となるように、内筒325の内周壁325aとポンプハウジング308の外周壁308aとの間の距離を1mm以下と設定し、内筒325がポンプハウジング308を周方向へ覆う割合を50%以上と設定している。

## 【0090】

POM樹脂は、上記の通り体積固有抵抗値が $10^{14} \Omega \text{cm}$ と大きいものの、POM樹脂に帯電した電荷の移動が全くないわけではない。すなわち、POM樹脂により形成されているケース本体324の内筒325の内周壁325aと、金属製のポンプハウジング308の外周壁308aとの間の距離を小さくすることにより、ケース本体324に帯電している電荷はポンプハウジング308へ移動する。内筒325の内周壁325aとポンプハウジング308の外周壁308aとの間の距離が小さくなるほど電荷は移動しやすくなり、内筒325の内周壁325aとポンプハウジング308の外周壁308aとの対向面積が大きくなるほど電荷は移動しやすくなる。したがって、内筒325の内周壁325aとポンプハウジング308の外周壁308aとの間の距離を1mm以下とし、ケース本体324の内筒325がポンプハウジング308の外周を周方向へ覆う割合を50%以上とすることにより、ケース本体324の帯電圧を2kV以下とすることができる。

## 【0091】

燃料フィルタ320に帯電した電荷は、POM樹脂により形成されているフィルタケース322のケース本体324を経由して燃料ポンプ302のポンプハウジング308へ移動する。このとき、POM樹脂は体積固有抵抗値が大きいため、ケース本体324からポンプハウジング308へ移動する電荷の移動速度は遅くなり、コロナ放電により電荷が移動する。なお、フィルタケース322として導電性の樹脂を用いた場合、ケース本体324からポンプハウジング308へ移

動する電荷の移動速度は速くなり、火花放電により電荷が移動するおそれがある。燃料ポンプ302のポンプハウジング308に移動した電荷は、燃料ポンプ302内の導電体を經由して電気コネクタ14（図2参照）へ移動し、最終的に図示しないバッテリーへ移動する。

## 【0092】

第11実施例によると、燃料ポンプ302と燃料ポンプ302の外周側に設置される燃料フィルタ320との位置関係を規定することにより、フィルタケース322の帯電圧を2kV以下にすることができる。そのため、静電気の放電によるフィルタケース322などの樹脂部材の損傷を防止することができる。したがって、フィルタケース322として高価な導電性樹脂用いる必要がない。また、フィルタケース322からアースを確保するための部材を必要としないため、部品点数を低減することができる。

## 【0093】

また、第11実施例では、ケース本体324の内筒325は外筒326よりも肉厚が薄く形成されている。そのため、燃料ポンプ302から内筒325と外筒326との間に収容されているフィルタエレメント78に燃料が供給されたとき、燃料の圧力により内筒325は外筒326より大きく変形する。内筒325は径方向内側すなわち燃料ポンプ302のポンプハウジング308側へ変形し、内筒325の内周壁325aと燃料ポンプ302のポンプハウジング308の外周壁308aとの間の距離が縮小される。したがって、フィルタケース322から燃料ポンプ302のポンプハウジング308への電荷の移動を促進することができる。

第11実施例では、フィルタケースをPOM樹脂から形成する場合について説明したが、体積固有抵抗値が $10^{12}$ から $10^{15}\Omega\cdot\text{cm}$ の範囲にある非導電性の樹脂であればPOM樹脂に限らず適用することができる。

## 【0094】

以上説明した本発明の実施の形態を示す上記複数の実施例では、フィルタケースの外周側方にプレッシャレギュレータを設置しているので、フィルタケースの軸方向の長さ範囲にプレッシャレギュレータの少なくとも一部が含まれる。フィ

ルタケースおよびプレッシャレギュレータが軸方向に占める長さが短くなるので、ポンプモジュール全体として軸方向の長さが短くなる。

【0095】

また上記複数の実施例では、サクシジョンフィルタ58として厚肉の不織布を用いている。そのため、従来はフィルタエレメント78で捕集されていた異物をサクシジョンフィルタ58で捕集することができる。ポンプモジュール300の燃料ポンプ302の周囲はデッドスペースであるため、サクシジョンフィルタ58の厚肉化にともないサクシジョンフィルタ58の体格が大きくなる場合でも、ポンプモジュール300の大型化につながることはない。サクシジョンフィルタ58による異物の捕集能力を高めることにより、フィルタエレメント78に要求される異物の捕集負担を低減することができる。その結果、フィルタエレメント78の体格を増大することなく、総合的な異物の捕集性能を向上することができるとともに、フィルタエレメント78の耐用寿命を延長することができる。

上記実施例では、燃料タンク内に設置されたサブタンク内にポンプモジュールが収容される例について説明した。しかし、ポンプモジュールを直接燃料タンク内に収容してもよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の第1実施例によるポンプモジュールを示す断面図である。

【図2】

第1実施例によるポンプモジュールを用いた燃料供給装置を示す断面図である。

【図3】

第1実施例によるポンプモジュールの受電コネクタ周囲を示す拡大断面図である。

【図4】

図2のIV方向矢視図であり、フィルタケースを破断してフィルタエレメントの一部を示している。

【図5】

図 3 の V - V 線断面図である。

【図 6】

第 1 実施例によるポンプモジュールを示す分解組立図である。

【図 7】

本発明の第 2 実施例によるポンプモジュールを示す断面図である。

【図 8】

本発明の第 3 実施例によるポンプモジュールを示す断面図である。

【図 9】

本発明の第 4 実施例によるポンプモジュールを示す断面図である。

【図 1 0】

本発明の第 5 実施例によるポンプモジュールを示す断面図である。

【図 1 1】

本発明の第 6 実施例によるポンプモジュールを示す断面図である。

【図 1 2】

本発明の第 7 実施例によるポンプモジュールを示す断面図である。

【図 1 3】

本発明の第 8 実施例によるポンプモジュールを示す断面図である。

【図 1 4】

本発明の第 9 実施例によるポンプモジュールを示す図 1 5 の XIV - XIV 線断面図である。

【図 1 5】

図 1 4 に示すポンプモジュールの平面図である。

【図 1 6】

図 1 4 の XVI - XVI 線断面図である。

【図 1 7】

図 1 4 に示すポンプモジュールの燃料ポンプを示す平面図である。

【図 1 8】

本発明の第 1 0 実施例によるポンプモジュールを示す図 1 9 の XVIII - XVIII 線断面図である。

【図 1 9】

図 1 8 に示すポンプモジュールの平面図である。

【図 2 0】

図 1 8 に示すポンプモジュールのXX-XX線断面図である。

【図 2 1】

本発明の第 1 1 実施例によるポンプモジュールを示す断面図である。

【図 2 2】

図 2 1 のXXII-XXII線断面図である。

【符号の説明】

- 1 0        燃料供給装置、
- 2 0        サブタンク
- 3 0、1 1 0、1 2 0、1 3 0、1 4 0、1 5 0、1 6 0、1 8 0、2 0 0
- 、2 4 0、3 0 0        ポンプモジュール
- 3 2、1 9 0、2 0 2、3 0 2        燃料ポンプ
- 3 3、3 0 6        樹脂カバー
- 3 3 a        上方端面
- 3 4、2 0 5        吐出部
- 3 6、3 0 8        ポンプハウジング
- 3 6 a        外周側面
- 3 8        Oリング
- 4 0        受電コネクタ
- 4 1 a        コネクタ凹部
- 4 2        内側底面
- 4 3        受電端子
- 4 4        貫通穴
- 4 6        給電線
- 5 0        給電コネクタ
- 5 2        給電端子
- 5 8        サクシヨンフィルタ

- 59 凹部
- 60、182、210 燃料フィルタ
- 62、122、132、154、164、184、212、242
- フィルタケース
- 64、324 ケース本体（フィルタケース）
- 65 内筒
- 65a 内周側面
- 66 外筒
- 68、218 燃料流入部
- 70 燃料流出部
- 72 貫通部
- 74 蓋部（フィルタケース）
- 78、124、134 フィルタエレメント
- 79 逆止弁
- 90 上方凹部
- 100 中心軸
- 104 切り欠き領域
- 204 ポンプ上端部（吐出部の形成端部）
- 213 内筒
- 213a 内筒の上側開口縁部
- 214 外筒
- 214a 外筒の上側開口縁部
- 217 収容室
- 218a 上通路
- 220、244 覆壁部（覆部、第一分割部）
- 230、250 蓋部（覆部、第二分割部）
- 232、262 燃料通路
- 233a、233b、233c、260 下通路
- 235a 貫通孔（給電用通路）



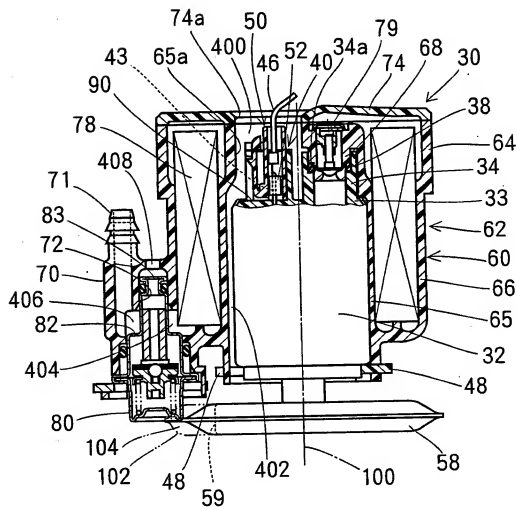
4 0 0	給電用通路
4 0 2	水抜き通路
4 0 4	出口開口
4 0 6	流出通路

【書類名】

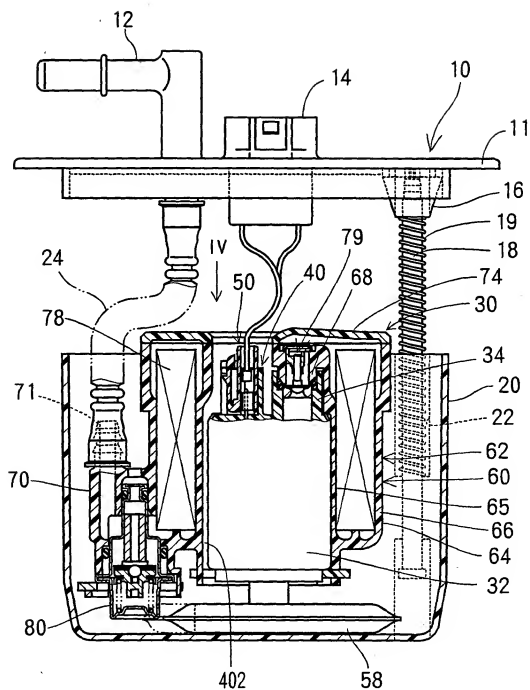
図面

【図 1】

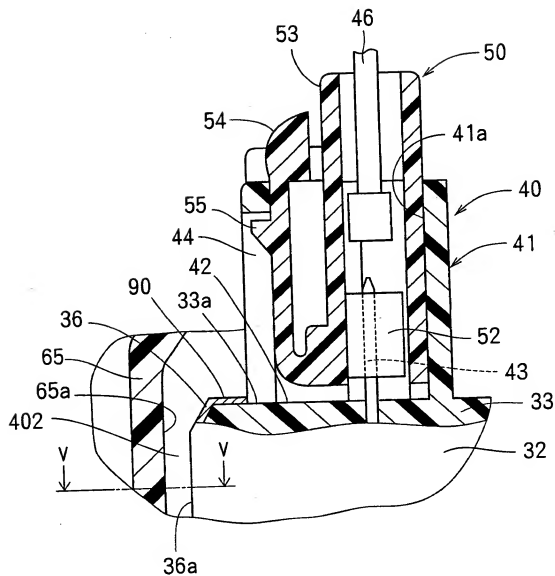
第 1 実施例



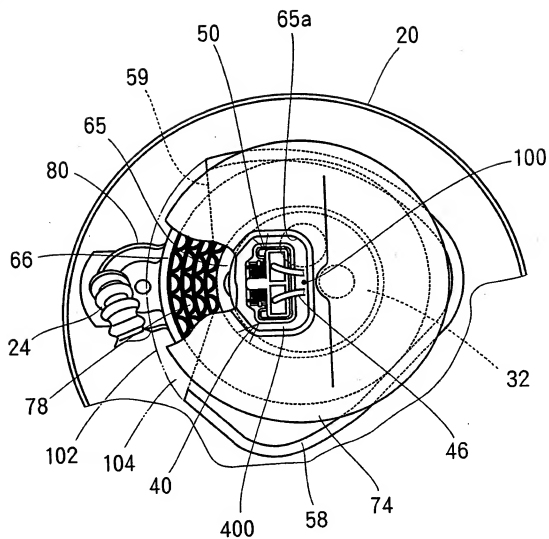
【図2】



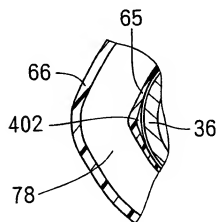
【 図 3 】



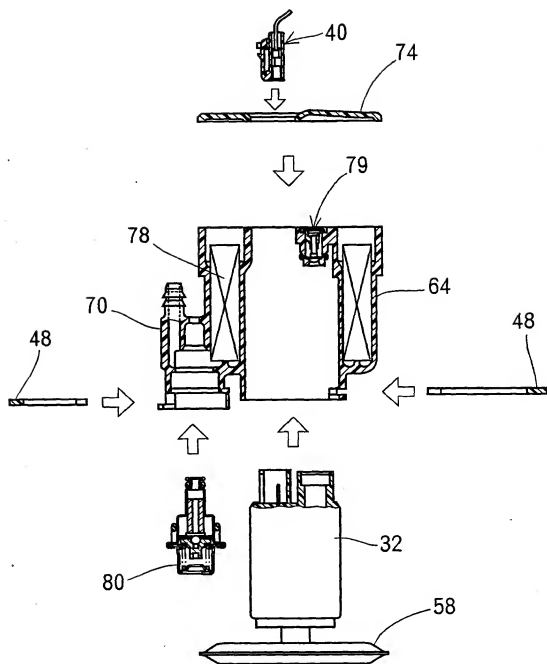
【图 4】



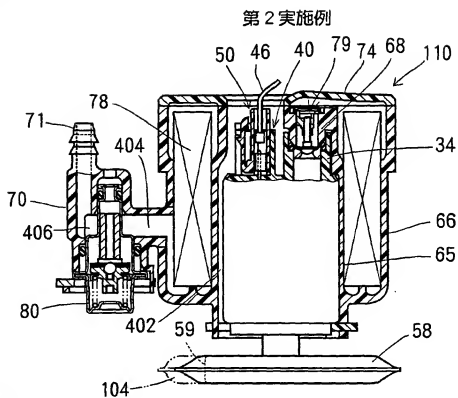
【图 5】



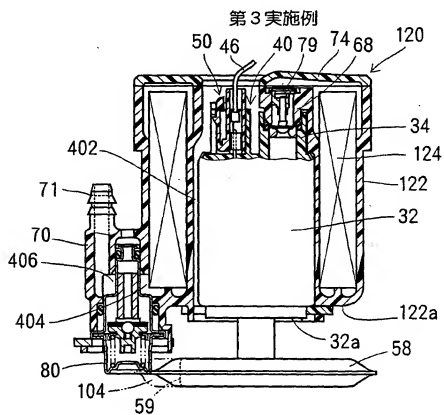
【図6】



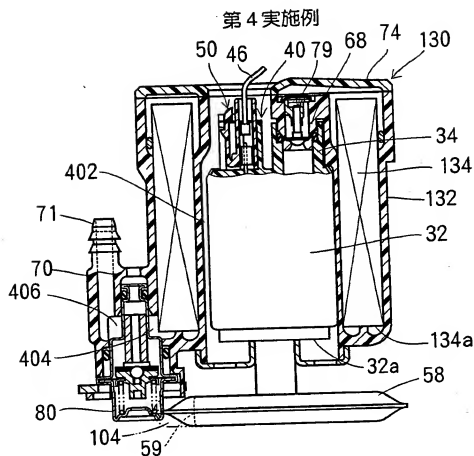
【図 7】



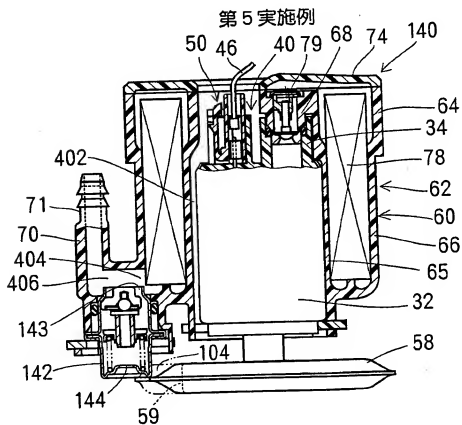
【図 8】



【図9】

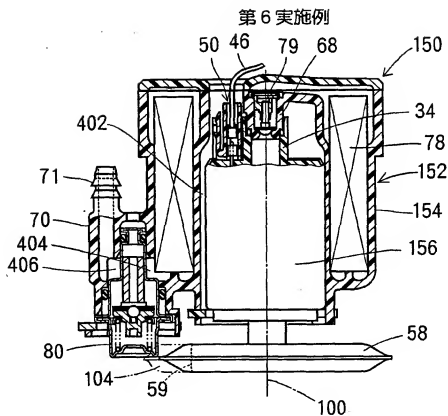


【図10】

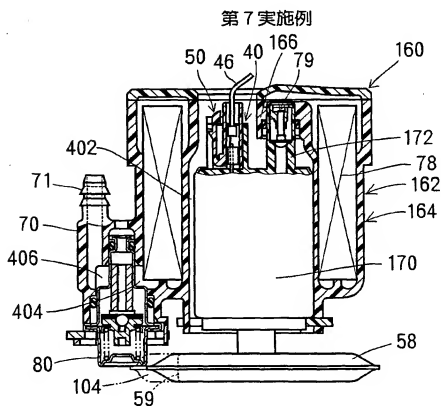




【図 1 1】

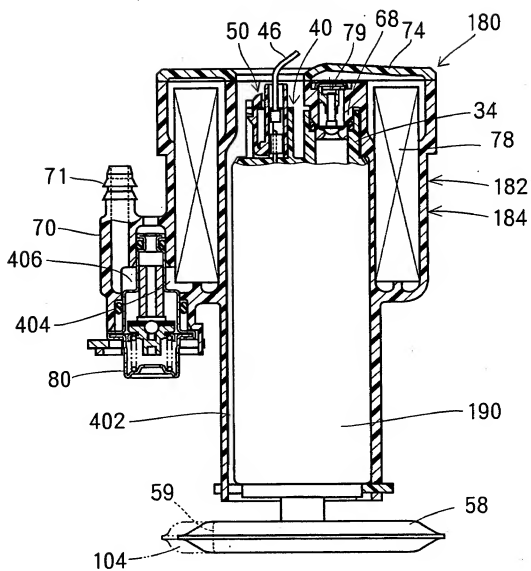


【図 1 2】



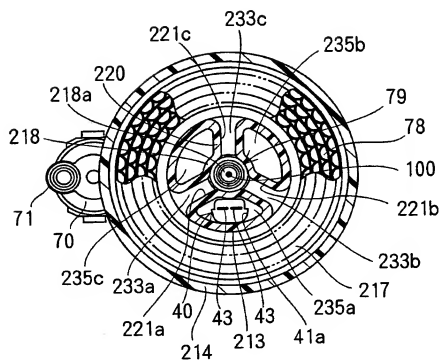
【图 1 3】

## 第 8 实施例

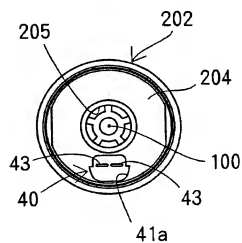




【図 16】

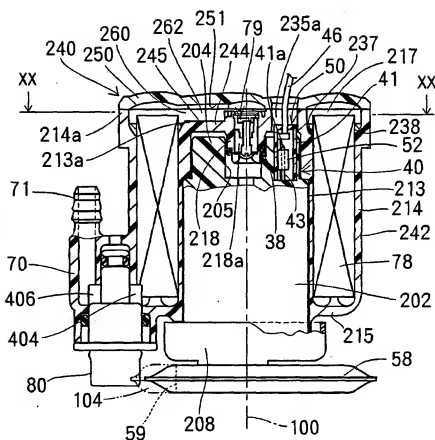


【図 17】

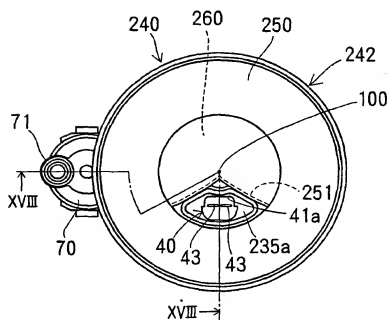


【図18】

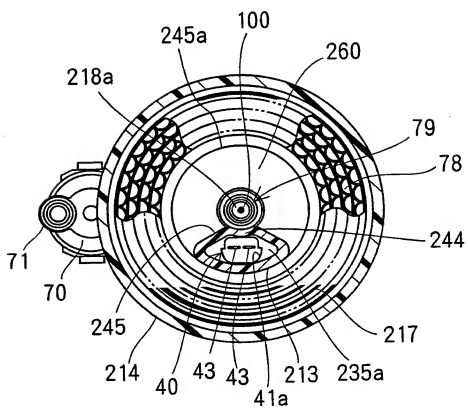
第10実施例



【図19】

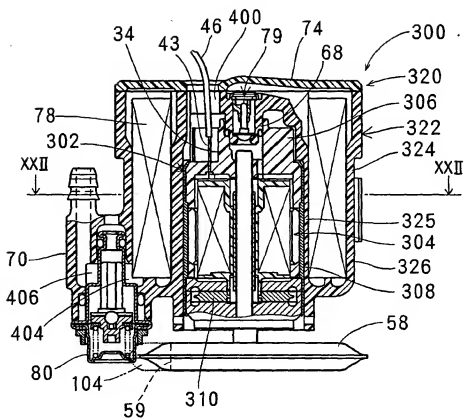


【図 20】

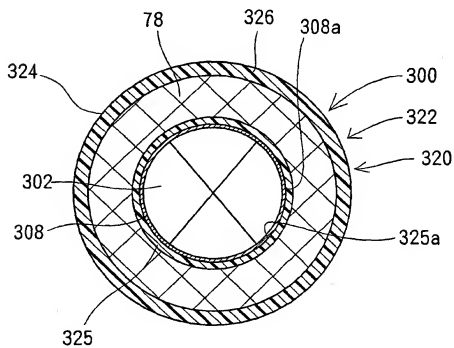


【図 2 1】

第 1 1 実施例



【図 2 2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 プレッシュアレギュレータを取り付けることにより軸長が長くなることを防止するポンプモジュールを提供する。

【解決手段】 フィルタケース 6 2 は円筒状に形成され、燃料ポンプ 3 2 の全周を覆っている。フィルタケース 6 2 は燃料ポンプ 3 2 が吐出する燃料中の異物を除去するフィルタエレメント 7 8 を収容している。燃料ポンプ 3 2 の吐出部 3 4 の内周側にフィルタケース 6 2 の燃料流入部 6 8 が嵌合しており、燃料流入部 6 8 内に逆止弁 7 9 が設置されている。プレッシュアレギュレータ 8 0 は、フィルタケース 6 2 の外周側面側の下方に設置されており、フィルタケース 6 2 を中心軸方向に投影した投影領域に一部が含まれている。サクションフィルタ 5 8 の周方向の一部を切り欠いて凹部 5 9 が形成されている。プレッシュアレギュレータ 8 0 の下方端部は切り欠き領域 1 0 4 に位置している。

【選択図】 図 1



出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000004260]

1. 変更年月日

1996年10月 8日

[変更理由]

名称変更

住 所

愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地

氏 名

株式会社デンソー